

「MoMA ニューヨーク近代美術館展」がスタート

森美術館 [港区六本木：六本木ヒルズ 森タワー / 館長 デヴィッド・エリオット] では 2004 年 4 月末より、本年のプログラムを代表する大型企画を相次いで開催いたします。

2004 年 4 月 28 日からは「MoMA ニューヨーク近代美術館」展をスタートいたします。

「MoMA ニューヨーク近代美術館展 モダンってなに? : アートの継続性と変化、1880 年から現在まで」と題した本展では「モダン」と呼ばれる 19 世紀末から 20 世紀中頃にわたる時代や、その時代に生み出されたアート作品と現代アートとの関係について、新たな見方を提案します。

また、2004 年 5 月 29 日からは「イリヤ&エミリア・カバコフ展 : 私たちの場所はどこ?」を開催。

この展覧会は、独自の物語性・パロディを用いて真摯な問題提起を大胆な世界観で表現するアーティスト、イリヤ&エミリア・カバコフ (旧ソ連生・在ニューヨーク) の新作展です。これら大型企画である両展はまったく異なった表現世界・メッセージ性を持ちますが、共通する圧倒的なスケール感とボリュームは、来館者に驚きをもって迎えられれることと確信しています。

なお、森美術館が国内外でこれから活躍する若手アーティストを紹介するシリーズ「MAM プロジェクト」では、第 2 弾として 2004 年 5 月 29 日からジュン・グエン = ハツシバ (日本生まれ・在ベトナム) の作品を展覧します。

プレスお問い合わせ

広報部 担当：鈴木、高橋、三浦
TEL: 03-6406-6111 FAX:03-6406-9351
E-mail: pr@mori.art.museum
Web: www.mori.art.museum

106-6150 東京都港区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー 森美術館

PRESS RELEASE
プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

MoMA ニューヨーク近代美術館展

モダンってなに？：アート of 継続性と変化、1880年から現在まで

会期：2004年4月28日（水）－8月1日（日）〔会期中無休〕 会場：森美術館 53階

◎ムンク、ピカソ、マティスの傑作からひも解く、近代アートの新たな物語。

「モダンってなに？」は、ニューヨーク近代美術館（The Museum of Modern Art, New York, 以下 MoMA）コレクションから約 290 点の絵画、写真、映画、デザイン、および建築作品を紹介する展覧会です。19 世紀末から現代にいたる近代アートの流れを一貫した説明でつづる本展は、2004 年度に森美術館が開催する重要な展覧会です。キュビズムとシュールレアリスムを頂点とする芸術運動を確立した「近代アート」の考え方はその後、30 年以上にわたる世界のアート、文化、政治、社会の激変によって有効性が薄れ、時流から外れたものとなりました。現在、近代アートは現代と関わり合いのない歴史上の一思潮とみなされがちです。そして「現代アート」という新しいカテゴリーに置き換えられようとしていますが、その関係は明白ではありません。

本展ではアート、デザイン、建築のカギになる作品を紹介しながら、過去と現在の新たな物語を作るべく、「近代」と「現代」の関係を探り、120 年前の美術や文化が今日の我々にとっても同じように大切であること、そこには連綿と続く根源的な要素があることを示します。

◎新しい視点で浮き彫りになる「モダン」。 －初めての切り口で傑作をとらえる展覧会

これまで近代アートの変遷を見るときには、とかく異なる技法の変遷や運動＝「～主義」などに注目されてきましたが、本展では作品制作の源点に立ち戻り4つのテーマを設けて作品を捉え、時代によって多様に表現される美術の根源的な視点を提示します。

4部構成

- ①「**根源に戻って**」では「不安」「孤独」「性」「死」といった私たちの生活に深く関わりあうテーマを、アーティストがどう表現したのかを紹介。（作家：ピカソ、ゴッゲン、ジャコメッティ、マティス、モネ、ルドン、ムンク等）
- ②「**純粋さを求めて**」では 20 世紀中頃、精神性や理想主義への関心が高まり、その結果様々な抽象的な作品が制作されましたが、そうした傾向が現代アートにどのように反映されているのかをみていきます。（作家：イヴ・クライン、ブランクーシ、カンディンスキー、モンドリアン等）
- ③「**日常性の中で**」は私たちの生活に身近なマスメディアや広告イメージを援用して表現された「ポップアート」と、ありふれた日常生活をテーマに制作する現代アーティストの作品がどのように関連しあっているかを浮かびあがさせます。（作家：ウォーホル、リヒター、ラウシェンバーグ、ジャスパー・ジョーンズ、ジェフ・クーンズ、ジム・ダイン等）

PRESS RELEASE
プレスリリース

④「変化に向かって」では、作家が表現したい主題をひとつの形ではなく自在な創意で変化・変形させた作品を掘り下げます。(作家：ヨーゼフ・ボイス、マン・レイ、ミロ等)

これらのテーマを通し、今まで見えてなかった側面に光をあてる本展は近代アートの定義づけを明確にするだけでなく、ムンク、ピカソ、マティス、レジェなどの傑作と現代アート作品との関係も探ります。共同企画者ならびに当館館長のデヴィッド・エリオットは「このような展覧会は長い間試みられませんでした。我々の時代のアート、建築、デザインに見られる創造性は、単に時代の一部ではなく、世界全体を包含する現象であることを示すことができるでしょう。」と述べています。

そしてニューヨーク近代美術館館長のグレン・ラウリーは次のような言葉を寄せています。「この展覧会はニューヨーク近代美術館と、アジアにおけるアート世界の重要かつ新しい拠点としてその存在を確立しつつある森美術館との最初のコラボレーションです。森稔、森佳子両氏は旧くから MoMA の国際ナショナルカウンシルメンバーであり、我々も森美術館の計画段階からその創出に深く結びつきを持てた事をたいへん光栄に思っています。本展の目的は近代美術を再考し、そこから新たなアイデアを喚起することにあります。分けられた4つのセクションを通して作品を観ることによって、浮かびあがるのはそれらの作品の奥底に存在する観念や独自の着想です。それらが時代を超え、現代に与える影響を発見することができるでしょう。」

「モダンってなに？」は MoMA のキュレーター、デボラ・ワイとウェンディ・ワイトマン、および森美術館館長デヴィッド・エリオットと森美術館キュレーター、金善姫が企画担当しています。

デボラ・ワイ ニューヨーク近代美術館 アビー・オールドリッチ・ロックフェラー チーフキュレーター

1996年より MoMA の版画・挿絵部門のチーフキュレーターを務める。1976年にアシスタント・キュレーターとして着任後、アソシエイト・キュレーター、キュレーターを経て現職。MoMA では 25 以上の展覧会を様々なテーマにて開催。代表的な展覧会に 1982年に開催したルイーズ・ブルジョワの初めての彫刻回顧展と 1994年に開催された同じくブルジョワのプリント(版画) 回顧展などがある。

ウェンディ・ワイトマン ニューヨーク近代美術館 キュレーター

1980年より現職、近・現代の版画の専門家。MoMA ではキキ・スミス、ジャスパー・ジョーンズなどの数多くの 20 世紀およびコンテンポラリーアーティストの個展を手がける。2000年に MoMA で開催された「モダンの始まり」展のカタログに《黙想?としての風景画:ゴッガンからノルデまで》の執筆など、全ての展覧会カタログ制作にも携わる。最近では「欧米のポップな印刷」展を手がけた。

デヴィッド・エリオット 森美術館 館長

2001年11月より現職、日本初の外国人館長として就任。オックスフォード近代美術館館長に就任後、ストックホルム近代美術館館長などを歴任。数多くの展覧会において、アドバイザー、キュレーターそして講演者として活躍すると共に、今日の現代美術館の役割と機能について幅広く執筆する。国際美術館会議 (CIMAM) 会長でもある。

金善姫 森美術館 キュレーター

2003年1月より現職。前職は韓国の光州市立美術館チーフキュレーター。光州市立美術館で多数の展覧会を手がける。また第2回光州ビエンナーレのチーフコーディネーターとしても活躍、1996年から2002年の間はチュンナム国立大学にて教鞭をとる。現在は来年春に森美術館に巡回し、今秋に韓国にて開催される展覧会「ELEGANCE OF SILENCE」を企画中。

開館時間：月・水・木 10:00-22:00 | 金～日・祝前日 10:00-24:00 |

火 10:00-17:00 [いずれも入館は閉館の30分前まで] 会期中無休

入館料 (円)：一般：1,500 (1,800) [2,000]

学生：1,000 (1,300) [1,500]

子供：500 (800) [1,000]

<平日セット料金：MoMA 展+クサマトリックス展(～5月9日)または

カバコ展、MAMプロジェクト002(ともに5月29日～7月19日)

+展望台 東京シティビュー入館>

[休日セット料金：上記同セット]

*学生(高校・大学生) 子供(4歳以上～中学生)

お問い合わせ：TEL: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

主催：ニューヨーク近代美術館、森美術館、朝日新聞社、テレビ朝日

企画：ニューヨーク近代美術館、森美術館

後援：アメリカ大使館

特別協賛：ジブラルタ生命保険株式会社、ブルデンシャル生命保険株式会社

協賛：株式会社ワールド、株式会社 大林組、新光証券株式会社

特別協力：日本航空

協力：リュイナル (宝酒造株式会社)、ボンベイ・サファイア、

奥の松酒造株式会社

<カタログ>

本展のカタログ日本語版、英語版を4月28日に発売いたします。

サイズ：280mm × 229mm

頁数：208頁(内カラー図版165頁)

税込価格：(日) 2,500円(並製)、(英) 3,500円(上製)

PRESS RELEASE

プレスリリース

アーティスト

ベレニス・アボット
マリーナ・アブラモヴィッチ
ヨーゼフ・アルバース
カール・アンドレ
ディーター・アッペルト
アルマン P. アルマン
ジャン・アルプ
チャールズ・アトラス
ローリー・アンダーソン
フランシス・ベーコン
ジャコモ・バッラ
マシュー・パーニー
ティナ・パーニー
ゲオルク・バゼリッツ
ハンス・ベルメール
リンダ・ベングリス
ルシアン・バーンハード
ヨーゼフ・ボイス
クリスチャン・ボルタンスキー
ルイズ・ブルジョワ
マーガレット・バーク＝ホワイト
コンスタンティン・ブランクーシ
マリアンネ・ブランド
マルセル・ブロイアー
アレクサンダー・カルダー
ピーター・カラス
ピーター・キャンパス
ジョルジョ・デ・キリコ
チョ・スンホ
クリスト
イモジン・カニンガム
ステュアート・デイヴィス
アンドレ・ドラク
ヴァルター・デクセル
ジム・ダイン
オットー・ディックス
テオ・ファン・ドゥースブルフ
シェリル・ドネガン
ジャン・デュビュッフェ
ウィリアム・エグルストン
ジェームズ・アンソール
マックス・エルンスト
ウォーカー・エヴァンズ
ルシアン・フロイド
カタリーナ・フリッツェ
ポール・ゴーギャン
アルベルト・ジャコメッティ
ロバート・ゴッバーフェリックス・ゴンザ
レス＝トレス
アーシル・ゴーキー
アイリーン・グレイ
ホアン・グリス
エクトール・ギマル

アンドレアス・グルスキー
リチャード・ハミルトン
デヴィッド・ハモンズ
エーリッヒ・ヘッケル
エヴァ・ヘス
ゲイリー・ヒル
出光真子
ロバート・インディアナ
ジャスパー・ジョンズ
ドナルド・ジャッド
ワシリー・カンディンスキー
エルズワース・ケリー
アンドレ・ケルテス
アンゼルム・キーファー
菊畑茂久馬
マルティン・キッペンベルガー
エルンスト・ルードヴィヒ・キルヒナー
イヴ・クライン
オスカー・ココシュカ
ケーテ・コルヴィッツ
ウィレム・デ・クーニング
ジェフ・クーンズ
ギリエルモ・クイトカ
草間彌生
フェルナン・レジェ
ソル・ルウィット
リー・ヨンピン (李永斌)
ロイ・リキテンスタイン
エル・リシツキー
リチャード・ロング
クリスティン・ルーカス
アラン・マッカラム
チャールズ・レニー・マッキントッシュ
ルネ・マグリット
カジミール・マレーヴィチ
マン・レイ
ピエロ・マンゾーニ
ブライス・マードン
マリソル
アグネス・マーティン
アンリ・マティス
ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ
ジョアン・ミロ
ティナ・モドッティ
ラースロー・モホイ＝ナジ
ビート・モンドリアン
クロード・モネ
メリンダ・モリー
ロバート・モリス
エドヴァルト・ムンク
イサム・ノグチ
エミール・ノルデ
ジョージア・オキーフ

クラウド・オルデンバーグ
ジュリアン・オピー
トニー・アウスラー
マックス・ベヒシュタイン
ジョゼッペ・ペノーネ
ポール・ファイファー
パブロ・ピカソ
ジョン・ビルソン
ミケランジェロ・ピストレット
ジグマール・ボルケ
ジャクソン・ポロック
ロバート・ラウシェンバーグ
オディロン・ルドン
ゲルハルト・リヒター
ヘリット・リートフェルト
アレクサンドル・ロトチェンコ
オーギュスト・ロダン
ジェームズ・ローゼンクvist
マーサ・ロスラー
ロバート・ライマン
エゴン・シーレ
ヨースト・シュミット
クルト・シュヴィッターズ
チャールズ・シーラー
シンディ・シャーマン
デヴィッド・スミス
キキ・スミス
ナンシー・スベロ
エドワード・スタイクン
グスタフ・スティックリー
ポール・ストランド
ニコライ・スエチン
イヴ・タンギー
ジャン・ティンゲリー
ホアキン・トレス＝ガルシア
アンリ・クレマン・ヴァン・デ・ヴェルデ
エデン・ヴェレツ
ジャック・ド・ラ・ヴィルグレ
ビル・ヴィオラ
キャラ・ウォーカー
アンディ・ウォーホル
トム・ウェッセルマン
フランツ・ヴェスト
エドワード・ウェストン
フランク・ロイド・ライト
ピョートル・ヴィジコフスキ
ジャン・ペイリー (張培力)
(姓のアルファベット順)

PRESS RELEASE

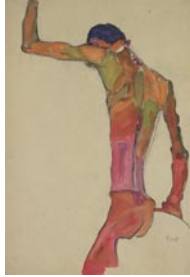
プレスリリース

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

MoMA ニューヨーク近代美術館展 モダンってなに？：アート の 継 続 性 と 変 化、1880 年 から 現 在 ま で
MODERN MEANS: CONTINUITY AND CHANGE IN ART FROM 1880 TO THE PRESENT

PRIMAL
根源に戻って



1



2

REDUCTIVE
純粋さを求めて



3

COMMONPLACE
日常性の中で



4



5

MUTABLE
変化に向かって



6

最新のプレス画像は森美術館ウェブサイトより申請いただけます。随時ご確認ください。
Please apply to use images at the Mori Art Museum website. WWW.MORI.ART.MUSEUM TEL: 03-6406-6111

PRESS RELEASE
プレスリリース

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

キャプション | CAPTIONS

MoMA ニューヨーク近代美術館展 モダンってなに？

MODERN MEANS: CONTINUITY AND CHANGE IN ART FROM 1880 TO THE PRESENT

「根源に戻って」

1. エゴン・シーレ
《片腕を上げて立つ裸の男》
1910年
水彩、木炭、紙
44.5 x 30.8 cm
ニューヨーク近代美術館
Gift of Jo Carole and Ronald S. Lauder

2. エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー
《街路、ベルリン》
1913年
油彩、カンヴァス
120.6 x 91.1 cm
ニューヨーク近代美術館
Purchase

「純粋さを求めて」

3. ヘリット・リートフェルト
《シュレーダー邸 ユトレヒト、オランダ》
1924年（模型制作 1965年）
木材
48.3 x 76.7 x 53.8 cm
ニューヨーク近代美術館
Gift of Mrs. Phyllis B. Lambert
©2004ARS, New York / Beeldrecht, Amsterdam

「日常性の中で」

4. ロバート・インディアナ
《LOVE》
1967年
スクリーンプリント
86.4 x 86.4 cm
刊行：Multiples, New York
印刷：Sirocco Screenprinters, North Haven, Conn 版：250部
ニューヨーク近代美術館
Riva Castleman Fund
©Morgan Art Foundation / ARS, New York & JVACS, Tokyo, 2004

5. アンディ・ウォーホル
《無題 版画集『マリリン・モンロー（マリリン）』より》
1967年
スクリーンプリント、10点組ポートフォリオの1点
91.5 x 91.5 cm
刊行：Factory Additions, New York
印刷：Aetna Silkscreen Products, New York 版：250部
ニューヨーク近代美術館
Gift of Mr. David Whitney
©The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts/ARS, New York & JVACS, Tokyo, 2004

「変化に向かって」

6. ルネ・マグリット
《光の帝国 II》
1950年
油彩、カンヴァス
78.8 x 99.1 cm
ニューヨーク近代美術館
Gift of D. and J. de Menil
©ADAGP, Paris & JVACS, Tokyo, 2004

PRIMAL

1. Egon Schiele
Standing Male Nude with Arm Raised, 1910
Watercolor and charcoal on paper
44.5 x 30.8 cm
The Museum of Modern Art, New York
Gift of Jo Carole and Ronald S. Lauder

2. Ernst Ludwig Kirchner
Street, Berlin, 1913
Oil on canvas
120.6 x 91.1 cm
The Museum of Modern Art, New York
Purchase

REDUCTIVE

3. Gerrit Rietveld
Schröder House
Utrecht, The Netherlands, 1924 Model date: 1965
Wood
48.3 x 76.7 x 53.8 cm
The Museum of Modern Art, New York
Gift of Mrs. Phyllis B. Lambert
©2004ARS, New York / Beeldrecht, Amsterdam

COMMONPLACE

4. Robert Indiana
LOVE, 1967
Screenprint
comp. and sheet: 86.4 x 86.4 cm
Publisher: Multiples, New York Printer: Sirocco Screenprinters, North Haven, Conn Edition: 250
The Museum of Modern Art, New York
Riva Castleman Fund
©Morgan Art Foundation / ARS, New York & JVACS, Tokyo, 2004

5. Andy Warhol
Untitled from Marilyn Monroe (Marilyn), 1967
One from a portfolio of ten screenprints
91.5 x 91.5 cm
Publisher: Factory Additions, New York
Printer: Aetna Silkscreen Products, New York
Edition: 250
The Museum of Modern Art, New York
Gift of Mr. David Whitney
©The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts/ARS, New York & JVACS, Tokyo, 2004

MUTABLE

6. René Magritte
The Empire of Light, II, 1950
Oil on canvas
78.8 x 99.1 cm
The Museum of Modern Art, New York
Gift of D. and J. de Menil
©ADAGP, Paris & JVACS, Tokyo, 2004

PRESS RELEASE

プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

イリヤ&エミリア・カバコフ展 「私たちの場所はどこ？」

会期：2004年5月29日（土）－7月19日（月・祝）〔会期中無休〕 会場：森美術館 52階

3つの時代とスケールが同居する、奇想天外の展覧会！

物語性に満ちたユニークな絵画やインスタレーション作品で世界中から注目されるロシア人アーティスト、イリヤ&エミリア・カバコフ（ニューヨークを拠点に活動）の新作展を開催します。この展覧会はイタリア・ヴェネチアのケリーニ・スタンパリア財団とローマに2004年秋に開館する21世紀国立美術館との共同開催となるもので、大好評を博したヴェネチアでの発表（2003年6～9月）に続き、森美術館52階にて開催されるものです（森美術館会期終了後ローマへ巡回予定）。イリヤ&エミリア・カバコフの最新作となる本展では、3つの時代の展覧会が異なるスケールで同じ展示空間の中に設置され、観客はまるでガリバーか小人になったような不思議な驚きと面白さを体験します。巨大なスケールで展開される「過去」の展覧会、ミドルスケールの「現在」、床に隠された別世界の存在を垣間見させてくれるミニサイズの「未来」の展覧会を見るために、来館者は時に見上げ、時にかがみこむなど様々な姿勢をとりながら空間をめぐることとなります。

絵画や彫刻、テキストや雑多な日常の記憶の断片で、さりげなくも緻密なトータル・インスタレーションを成立させるのがカバコフの作風。観客は入口から出口までの空間をめぐるながら時間、オブジェ、光と色、音に巻き込まれ、それらの意味の「相対性」の中に身を置き「自身の場所はどこか」「自分は何者か」を考えるきっかけを掴みます。体験する中で自身の記憶や想像力を動員して自由に遊ぶ面白さを発見されるはず。文学的側面においても才能を発揮するカバコフがつむぎだす途方もない世界。そこには特定のイデオロギーや物語に回収されるのを避け続けてきたカバコフならではの眼差しがあります。旧ソ連の政治体制、また第二次世界大戦から現在という時代の波にさらされてきた中で培われた強靱なユーモアと批評精神が独自の作品世界と人柄に息づいているのです。

イリヤ・カバコフ 略歴

1933年旧ソ連のドニエプロペトロフスク市生まれ。10才でレニングラード絵画彫刻建築大学付属の美術学校に入学、1951年にスリコフ記念モスクワ芸術大学グラフィック・アート科に入学。社会主義リアリズム体制の下、在学時より絵本の挿絵の仕事を始め、児童書の絵本挿絵作家として80年代末に西側に亡命するまで30年以上第一線で活躍する。並行して60年代～70年代に抽象や不条理な世界を描いた絵画、ソ連の日常生活で遭遇する場面をテキストとともに描いた絵本などを非公式に制作し、一部の関係者のみに公開する（代表的なものに絵とテキストで構成された「十の人物」という紙芝居形式の「アルバム」シリーズがある）。70年代半ばに成立した「モスクワ・コンセプチュアリズム」の一人で、体制反対を表明はしないものの、戦後ソ連で起こったさまざまな非公認芸術運動の周囲にいて、時に精神的中心の役割を果たす。87年に初めて西欧に招聘され、88年よりニューヨークを拠点にし、「共同キッチン」など旧ソ連の日常生活＝記憶のスペースを独自の皮肉とユーモア、フェティシズムを交えて再現した「トータル・インスタレーション」を展開、世界的に活躍する。ここ数年は旧ソ連の題材だけでなく、美術史や社会システムを再考する批評的なインスタレーションや、人間の想像的可能性を引き出すための大規模なプロジェクトをエミリア夫人との連名によって世界を飛び回り意欲的に行っている。日本での紹介も数多く、グループ展に「ソビエト現代美術～雪どけからベレストロイカまで～」展（世田谷美術館、1991）、「境界線の芸術—絵画と彫刻を超えて」展（セゾン現代美術館、1991）、また大規模な個展に「シャルル・ローゼンタールの人生と創造」（水戸芸術館、1999）が、常設作品に《彼らはのぞきこんでいる》（名古屋市白川公園、1999）、越後妻有アートトリエンナーレ（2000）がある。

開館時間：月・水・木 10:00-22:00 | 金～日・祝前日 10:00-24:00 | 火 10:00-17:00 [いずれも入館は閉館の30分前まで] 会期中無休
入館料（円）：一般：1,500（1,800）[2,000]、学生：1,000（1,300）[1,500]、子供：500（800）[1,000] 本展チケットにMAMプロジェクト002（～7月19日）と展望台 東京シティビュー入館料含
<平日セット料金：カバコフ展、MAMプロジェクト002 + MoMA 展（～8月1日）+展望台 東京シティビュー入館>
[休日セット料金：上記同セット]
*学生（高校・大学生）子供（4歳以上～中学生）*休日は土、日、祝日
お問い合わせ：TEL: 03-5777-8600（ハローダイヤル）

主催：森美術館、ケリーニ・スタンパリア財団、21世紀国立美術館

<カタログ>

本展のカタログを展覧会に際して発売予定です。

サイズ：239mm × 189mm (B5変形)

頁数：152頁

税込価格：2100円

また、5月28日（金）～6月27日（土）まで SHUGOARTS シュウゴアーツにて、イリヤ・カバコフのアルバム劇場「クローゼットのプリマコフ」が開催されます。 SHUGOARTS シュウゴアーツ WWW.SHUGOARTS.COM

PRESS RELEASE
プレスリリース

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

MAM プロジェクト 002:

ジュン・グエン = ハツシバ

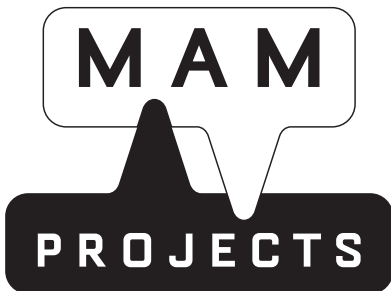
2004年5月29日(土) - 7月19日(月・祝) 会場: 森美術館 52階

海拔 250メートルの森美術館で、深海の世界を体験!

MAM プロジェクト第2弾はジュン・グエン = ハツシバ (日本生まれ・在ベトナム)。1968年、日本人とベトナム人の両親のもと東京に生まれ、現在はホーチミン・シティを拠点とするアーティストです。二つの祖国を持ち、米国で美術教育を受けた彼にとって、1990年代以降のグローバル化、国際化という大きな課題が、自己のアイデンティティの模索という個人的な問題と重なることは、まったく自然な流れです。初期作品では、シクロ (三輪タクシー) や蚊帳、新聞、米、インスタントラーメンなどを使ったインスタレーションを展開。ベトナムの社会背景において無視できないアメリカとの関係、経済環境などを作品のコンセプトに強く打ち出したものでした。その後、2001年に発表したビデオ作《ナ・トラン (ベトナム) のメモリアル・プロジェクト—複雑さへ、勇気ある者、好奇心をもつ者、そして臆病者のために》で、彼は国際的評価を得ます。インドシナ海で撮影されたこの映像作品では、海中でシクロをこぐドライバーの苦悩に浮かびあがる複雑な社会背景と、あまりにも美しい南洋の海の光の色が対照的で、見る者の心を素直に動かします。以降、《ハッピー・ニュー・イヤー: ベトナムのためのメモリアル・プロジェクトII》(2002年)、《メモリアル・プロジェクト水俣》(2002年)と相次いで映像による新作を発表し、国際的な位置づけを急速に確立しつつあります。

MAM プロジェクト 002では沖縄の海で撮影された新作《ホー! ホー! ホー! メリークリスマス: フラッグ・プロジェクト沖縄》(2003年)を発表。アメリカ国旗とベトナム国旗にある星印をテーマにした作品ではジェームズ・ボンドのリミックス・サウンドが流れる海底で、ベトナム戦争に関係したハリウッド映画スターの肖像画が、ベトナム国旗の赤い布に黄色で描かれ、アメリカの“スター”(映画スターと星を意味する)からベトナム国旗の星への転換を示唆します。

特に今回の展示は海拔 250メートルの森美術館で、深海で撮影された作品を観る、というスペクタクルな体験となります。



森美術館が世界各国の才能豊かな若手アーティストを応援するプロジェクト・シリーズ。MAM プロジェクト 001-003 は森美術館シニア・キュレーター片岡真実が担当します。

<次回予定>

MAM プロジェクト 003

R.O.R [レボリューションズ・オン・リクエスト]

主催: 森美術館

開館時間: 月・水・木 10:00-22:00 | 金~日・祝前日 10:00-24:00 |

火 10:00-17:00 [いずれも入館は閉館の30分前まで] 会期中無休

入館料 (円): 一般: 1,500 (1,800) [2,000]、学生: 1,000 (1,300)[1,500]、

子供: 500 (800) [1,000] 本展チケットにカバコフ展 (~7月19日) と

展望台 東京シティビュー入館料含

<平日セット料金: MAM プロジェクト 002、カバコフ展 (~7月19日) +

MoMA 展 (~8月1日) + 展望台 東京シティビュー入館>

[休日セット料金: 上記同セット] *学生 (高校・大学生) 子供 (4歳以上~中学生)

*休日は土、日、祝日 お問い合わせ: TEL: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

<カタログ>

MAM プロジェクト 001 「サンティアゴ・ククル」

カタログ (日・英2カ国版) を5月初旬発売予定。

サイズ: A5判 頁数: 60頁 (内カラー32頁) 税込価格: 1575円

PRESS RELEASE

プレスリリース

イリヤ & エミリア・カバコフ展 「私たちの場所はどこ？」

ILYA AND EMILIA KABAKOV: WHERE IS OUR PLACE?

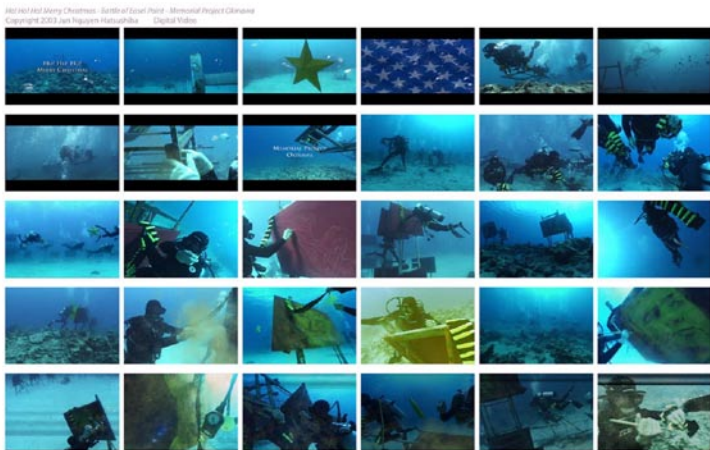


1、2. イリヤ&エミリア・カバコフ
私たちの場所はどこ？
2003年
ケリーニ・スタンパリア財団
写真提供：森美術館

1, 2. Ilya & Emilia Kabakov
“Where is Our Place?”
2003
Fondazione Querini Stampalia
Photo Courtesy: Mori Art Museum

3. 会場にて（右より）
イリヤ・カバコフ、エミリア・カバコフ
2003年
写真提供：森美術館

3. Ilya Kabakov and Emilia Kabakov
2003
Photo Courtesy: Mori Art Museum



《ホー！ホー！ホー！メリー・クリスマスーイゼル・ポイントの戦闘ーメモリアル・プロジェクト沖縄》(2003)
Ho! Ho! Ho! Merry Christmas - Battle of Easel Point - Memorial Project Okinawa (2003)
ビデオ作品
Video

最新のプレス画像は森美術館ウェブサイトより申請いただけます。随時ご確認ください。
Please apply to use images at the Mori Art Museum website. WWW.MORI.ART.MUSEUM TEL: 03-6406-6111

PRESS RELEASE
プレスリリース



MAM プロジェクト 002:
ジュン・グエン = ハツシバ

MAM PROJECT 002:
JUN NGUYEN - HATSUSHIBA



MORI ARTS CENTER

小沢剛：同時に答えろ YES と NO

会期：2004年8月24日（火）—12月5日（日）[会期中無休] 会場：森美術館 53階

牛乳箱サイズの小宇宙が世界をひとつに繋ぐ！ 1990年代以降の日本を代表する現代アーティスト、小沢剛の世界初個展

◎ユーモアに包まれた批判的精神 と「日本」への眼差し

小沢剛のアートの始まりは“牛乳箱”です。1960年代生まれのアーティストがアートシーンに登場しはじめた80年代後半、小沢は日本の貸し画廊の制度をユーモラスに批判した《なすび画廊》を展開。牛乳箱をギャラリー空間に転換し、さまざまなアーティストによる作品展示を牛乳箱空間で行い、ゲリラ的に街中の電信柱などに展示しました。アーティストにとって最も重要とされるオリジナリティを自ら放棄し、他者の意志が介入したプロセス全体を自らの芸術としたのです。1990年代以降の多文化時代、欧米中心で成立してきたアートシーンの脱中心化の機運と歩調をあわせるように、小沢剛はさまざまな国際展へ招待され、牛乳箱のアートも《新なすび画廊》として世界各地でプロジェクトを展開していきました。続いて提示した「相談芸術」のシリーズでは、《相談芸術大学》《相談芸術カフェ》、《相談芸術ホテル》などを展開。観客の意思によって変化していくというコンセプトは、アーティストの存在を希薄にしているようでいて、逆に小沢剛を1990年代以降の日本を代表する現代アーティストとして位置付けることとなりました。《なすび画廊》で小沢が見せるユーモアに包まれた批判的精神は、2001年以降に制作されている《ベジタブル・ウエポン》シリーズでも継承されています。世界各地の鍋料理に使われる食材で銃を形作り、戦闘のイメージとは距離を置いた現地の少女をモデルに写真を撮影。その後、その食材で実際に鍋料理を振舞うというもの。戦争の絶えない新世紀に、アートができる小

さなプロテストといえます。また、鍋を囲んだパーソナルな関係を基準とするこのプロジェクトは、世界各地で継続されることで、世界の人々をひとつに繋げるグローバルなスケールへと発展しています。

一方、小沢剛の作品には、「昭和期の日本」を感じさせるものも少なくありません。70年代の高度経済成長期に育った世代が経験した社会環境の変化や、そこで無抵抗に失ってきたものへのノスタルジーが随所に見られますが、それは「日本」というアイコンを商品化しようとする時代への迎合的な姿勢ではなく、民俗学的な視点も含めた日本人による「日本文化」の再検証です。このことは、グローバル時代におけるローカルな文化の再検証、国際的なアートシーンにおける日本現代美術の新しい文脈化の試みでもあります。

美術館レベルでは小沢剛の世界初個展となる「小沢剛展」は、牛乳箱に始まった小沢の小宇宙が、ひとつひとつのパーソナルな関係を繋げていくことでグローバルに発展してきたスケール感を、小沢の初期作品からの主要作品と最新作で構成するものです。

本展はまた、森美術館の目的のひとつである日本およびアジアのアーティスト活動の奨励を具体化するものでもあり、時代を担う中堅（ミッド・キャリア）のアーティストを「個展」形式で網羅し紹介する展覧会シリーズの第一回目となります。

開館時間：月・水・木 10:00 - 22:00 金～日・祝前日 10:00 - 24:00
火 10:00 - 17:00 (いずれも入館は閉館時間の30分前まで) 会期中無休
入館料等、詳細は未定

主催：森美術館

PRESS RELEASE
プレスリリース

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

COLORS ファッションと色彩： VIKTOR ® ROLF ® KCI

会期：2004年8月24日（火）～12月5日（日）[会期中無休] 会場：森美術館 53 階ギャラリー 1・2・3

◎5つの色をテーマに繰り広げられる、色彩とファッションの鮮明なる変遷

「COLORS ファッションと色彩：VIKTOR®ROLF®KCI」は17世紀から現在までに色彩がファッションにおいて果たしてきた役割について、色が持つ歴史的な背景や社会的な意味合いを衣装展の中で解き明かしてゆくものです。本展に登場する黒、青、マルチカラー、赤と黄、白は、これまで流行色としてファッション史に登場し、時代をより鮮明にいろどってきました。これまであまり包括的にとりあげられることのなかった色彩とファッションの関係をとり上げる意欲的な展覧会でもあります。

◎アートとファッションの境界を揺るがすデザイナーユニット、ヴィクター®ロルフの5つの「色」

ゲスト・キュレーターとしてこの試みを支えるのが、ファッション・デザイナー、ヴィクター®ロルフ（VIKTOR & ROLF）の2人組です。アートとファッションの境界を揺るがす作品を次々と世に送りだす彼らは、これまでにモデルの瞳以外は衣装も顔も全て黒づくめの、「ブラックホール」コレクション（2001年秋冬）や、青い衣装に身を包んだモデルとその映像を同時に映し、ビデオ編集で使用されるクロマキー処理を用いて、衣装がもつ青色が都市風景などを映すスクリーンと化す「ブルースクリーン」コレクション（2002年秋冬）など、色彩に特化した話題のコレクションを発表してきました。本展ではこれらのコレクション・ショーの映像を核に、2人が京都服飾文化研究財団（KCI）所蔵の約一万一点のコレクションから選んだ17世紀から現代までの衣装やアクセサリ90

点が展示されます。このほか、ヴィクター®ロルフによる衣装をはじめ、オランダのフローニンガー美術館、セントラル美術館、またフランスのクリスチャン・ディオール・クチュールなどからも出展されます。

現代ファッションの最先端で活躍するデザイナーの展示セレクションは、衣装がもつ時代を超えた「色」をよみがえらせ、古来より人間を魅了し続けてきた色彩の持つ根源的な魅力、楽しさ、そして力強さをあらためてわれわれに認識させてくれるでしょう。

本展は、京都服飾文化研究財団と森美術館との共同開催で、京都国立近代美術館（会期：2004年4月29日-6月20日）に続き、森美術館で開催いたします。

ヴィクター®ロルフ 略歴

ヴィクター・ホルステイング（1969年イスラエル生）とロルフ・スノーレン（1969年オランダ生）の2人組。1993年にブランド設立。オランダに本拠地をおく彼らは、1998年よりパリにてオートクチュールを発表、2000年よりプレタ・ポルテを手がける。アートとファッションの境界を自由に行き来する彼らのデザインは知的でオリジナリティーにあふれている。2001年より色彩に特化したコレクションを開始。21世紀におけるファッションの可能性を提示しつづける彼らの活躍はめざましく、2003年にはパリ国立衣装テキスタイル美術館（ルーブル宮）において回顧展が行われた。また2004年にはヴィクター®ロルフによる香水を発売する予定。

出品デザイナー

アズディン・アラリア、クリトバル・バレンシアガ、ガブリエル・シャネル、クリスチャン・ディオール、ドルチェ&ガッバーナ、マリアノ・フォルチュニ、ジョン・ガリアーノ（クリスチャン・ディオール）、ジャン＝ポール・ゴルチエ、川久保 玲（コム・デ・ギャルソン）、三宅一生、エミリオ・プッチ、ロペール・ピケ、イヴ・サンローラン、エルザ・スカパレリ、ヴィクター®ロルフ、マドレーヌ・ヴィオネ、渡辺淳也、ヴィヴィアン・ウエストウッド、山本耀司（姓のアルファベット順）

開館時間：月・水・木 10:00 - 22:00 金～日・祝前日 10:00 - 24:00 火 10:00 - 17:00（いずれも入館は閉館時間の30分前まで）会期中無休 入館料等、詳細は未定

主催：森美術館、京都服飾文化研究財団

企画制作協力：京都国立近代美術館

後援：オランダ王国大使館

特別協力：株式会社ワコール

協力：株式会社七彩、吉忠マネキン株式会社

PRESS RELEASE

プレスリリース

今後の展覧会ハイライト

(2004年～)

1. アーキラボ：建築、アート、都市の新たな実験

会期：2004年12月中旬～2005年3月 会場：森美術館

建築は、現代の情報および都市環境と密接に結びついた先鋭的な実験の場となっています。コンピュータ、そして新素材は、これまで実現しえなかった形態を次々と生み出し、新たな建築物が都市空間に次々とあらわれはじめています。この展覧会では、1950年代以降、建築において各時代で探求されてきたユートピアのヴィジョンおよび実験を、現代の最先端の表現を中心に紹介することで、建築、都市、そしてアートの未来を探るものです。

2. アートが紡ぐ物語（仮題）

会期：2005年4月24日～2005年7月 会場：森美術館

現代アートにおける物語性に着目し、ストーリーを感じさせる絵画、写真、ビデオなど多彩な作品を紹介します。現実と非現実の間をさまよう不可思議なイメージの奥にひそむ様々なテーマ・家族、人種、ジェンダーなど・は、今を生きる私たちが対面している問題でもあります。アーティストが「語る」物語と今日的テーマとの関係を探ります。

3. 杉本博司展（仮題）

会期：2005年10月中旬～2006年1月 会場：森美術館

ハーシュホーン美術館&彫刻庭園との共同企画です。

4. AFRICA REMIX：現代アフリカ美術とその未来（仮題）

会期：2006年2月中旬～2006年5月中旬 会場：森美術館

過去10年間のアフリカ美術を、アート、映画、文学、音楽、建築、デザインを網羅して構成、展覧します。著名なアーティストから若手アーティストまで、アフリカ国内のみならず海外で活躍しているアフリカ人アーティストを紹介。本展覧会はデュッセルドルフ美術館、パリ国立近代美術館、ハイワード・ギャラリーを巡回した後、東京で開催されます。ゲスト・キュレーターにサイモン・ジャミを迎えます。

5. ビル・ヴィオラ回顧展（仮題）

会期：2006年6月～2006年9月 会場：森美術館

6. ホット & スパイシー：アジアのクリエイターの今を描く

会期：2006年10月～2007年1月 会場：森美術館

アジアのアート&カルチャーをリアルタイムに紹介。さまざまな地域から次々と湧き出る最もダイナミックでエネルギッシュな芸術・文化をアート、デザイン、ファッション、音楽、映画、ニューメディア、若者文化を網羅して紹介します。本展覧会には日本、韓国、中国、イスラエル、トルコ、そして他のアジア諸国の作品が展覧されます。

7. 路上の詩：フランス近代写真の軌跡

会期：2007年2月～2007年5月 会場：森美術館

写真史の上でも魅力的な時代である1920年代半ば～1960年代後半の作品を中心に、当時からメディアに影響を与えてきた人道主義のフランス人写真家たちの作品を検証します。この重要な時代を文化的、歴史的背景を考慮しつつ、300点以上の傑出した作品で構成します。ゲスト・キュレーターにピーター・ハミルトンを迎えます。

PRESS RELEASE

プレスリリース

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER